

### 3. 計画の内容（現状と課題・施策の方向性）

#### 1. 子育てをしているすべての家庭を応援するために

##### （1）地域における様々な子育て支援サービスの充実

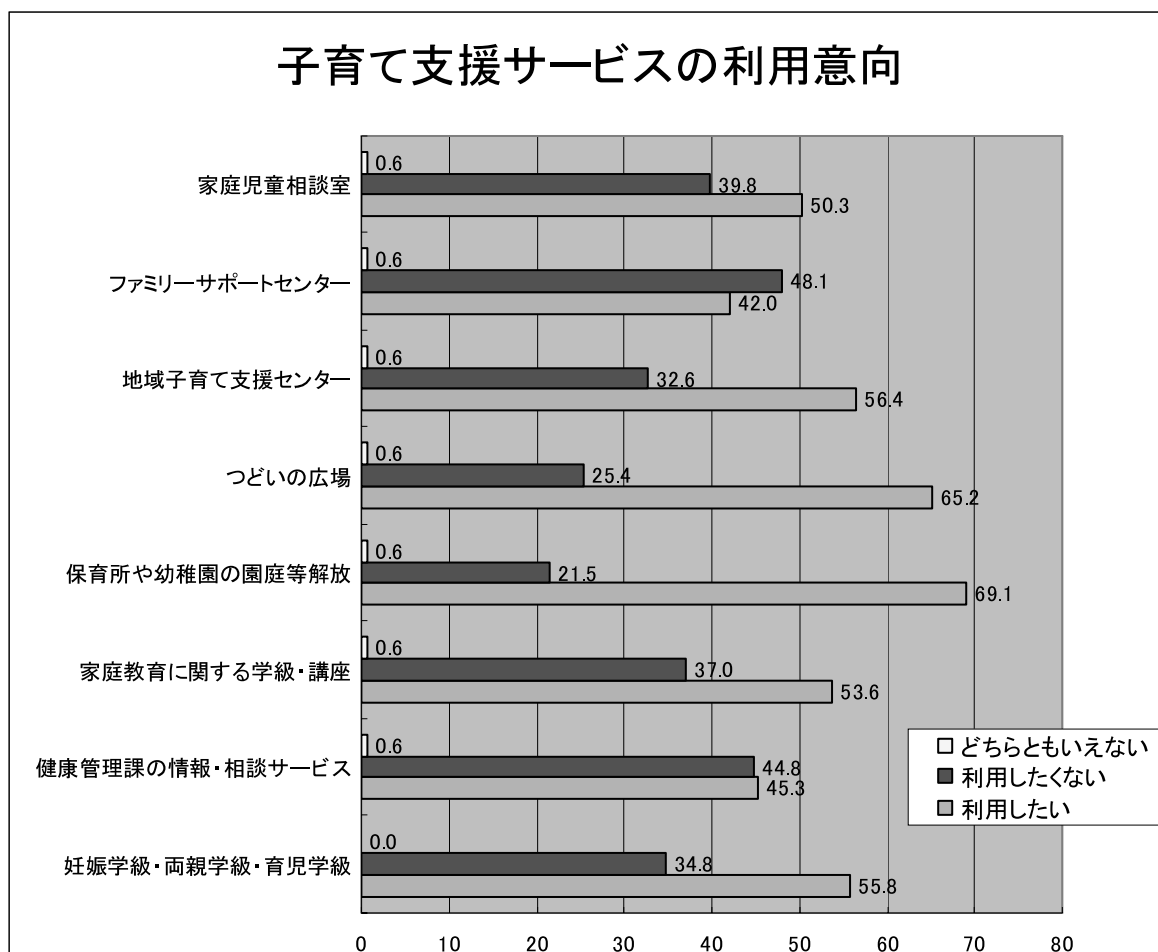
###### 《現状と課題》

子供を安心して育てるためには、地域において子育てを支援する仕組みが必要です。私たちの村でも、平成14年度から「子育て支援センター」、「やまて子育てサポートセンター」が開設されるなど、様々な支援策が講じられつつありますが、子育てを取り巻く社会環境の変化や子育て家庭の多様なニーズに対応するには、サービスの新設や既存サービスの事業内容の見直しなども急務の課題です。

また私たちの村では「子育て支援センター」や「やまて子育てサポートセンター」のように、地域の子育てニーズに対応した新たな事業を生み出す動きも活発に行われてきました。こうした住民参加による地域ぐるみの子育て支援の動きは、次世代育成時代の地域子育て支援のあり方を先取りする好材料ともいえます。

全国的な傾向として、少子化や核家族化、近隣住民同士の交流の希薄化により、特に在宅で子育てをしている人の負担感、孤立感が増しています。

（図1）



実態調査の結果からみると子育て支援サービスの利用意向は、どの内容においてもほぼ50%前後であることから(図1)、子育てに関する情報や実際のサービス利用に対するニーズも高いと考えられます。

このようなことから、今後の子育て支援サービスについては、共働き家庭のみならず、在宅で子育てを行う家庭も主な対象として取り組んでいく必要があります。

#### 《施策の方向性》

##### ア 地域における子育て支援サービスの充実

すべての子育て家庭が地域で安心して子育てができるよう、地域における子育てに関する支援体制の整備に取り組んでいきます。

乳幼児の子育て中の親子が利用できる「子育てサロン」「子育て支援センター」「やまて子育てサポートセンター」といった施設や事業を実施しながら、気軽に集まって子育てに関する情報を交換したり、悩みを分かちあったり、アドバイスや相談も受けられるような環境を整えていきます。

今後、具体的な取り組みとして、「つどいの広場」事業を取り入れ、子育て支援機能の充実を図っていきます。

子育てサロンの参加者状況(平成15年度実績)

実施回数	7回	
参加者数	大人	57人
	子ども	67人

子育て支援センターの利用状況（平成15年度実績）

	うさぎサークル（0・1歳）	パンダサークル（2・3歳）
実施回数	年12回	年12回
参加者数	子ども 134人 大人 105人	子ども 156人 大人 125人
内容	新聞紙遊び、スライム遊び、小麦粉粘土、ごっこ遊び（魚釣り、おもちゃつき、雪遊び）	園庭遊び、蝉取り、泥んこ遊び、クリスマスリース作り、凧作り、お店屋さんごっこ



親子クッキング



パズルを作ろう



クリスマスリースを作ろう

やまて子育てサポートセンターの利用状況（平成15年度）

活動内容別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1 保育園・幼稚園の送迎			2										2
2 保育園・幼稚園などの開始前、終了後の保育													0
3 学校の放課後又は学童保育終了後の保育													0
4 子供が軽い病気のときの援助													0
5 保護者が行事等に参加する場合の一時保育													0
6 保護者が病気、出産、介護等に該当する場合の一時保育													0
7 保育園・学校等が休みの時の援助													0
8 保護者が急用等の場合の援助													0
9 保護者が短時間・臨時的就労の場合の援助		1		1				4			3	1	10
10 保護者の求職活動中の援助	1	2	3	2	1								9
11 休日の1日保育													0
12 保護者が学校行事に参加中の保育			1		1								2
13 集団保育			1										1
14 その他	1			1	1	1		2	1				7
計	2	3	7	4	3	1	0	6	1	0	3	1	31



交流会の様子

## イ 相談機能の充実

身近な場所に集い、悩みを分かち合ったりできるような環境づくりと同時に、子育てをする中で生じる様々な問題等に対して適切な対応をとることができるよう、既存の「妊産婦教室」や「育児教室」などを通じて専門的なスタッフによる相談事業についても、より一層充実させていきます。

育児教室の利用状況（平成15年度実績）

実施回数	年12回
参加者数	大人 161人 子ども 186人
内容	トイレトレーニング・事故予防・ 絵本・歯・幼児食・しつけ など

妊産婦教室の利用状況（平成15年度実績）

実施回数	年12回
参加者数	妊婦 28人 産婦 48人 子ども 69人
内容	沐浴・妊婦体操・離乳食など

※両親学級（パパママスクール）2回含む



パパママスクールで沐浴の練習



## ウ 子どもの居場所づくり

幼児期の異年齢集団による「群れ遊び」は、子どもの心身の発達や社会性の獲得の土台となる重要な体験です。そして学童期・思春期において、学校の枠を超えた交流の広がりや多様な経験や人間関係の広がり、異世代との交流、居場所の存在などは、子どもから大人へ成長する上で重要な要素です。

しかし現在は、このような子どもが育つための地域の「栄養素」ともいえる環境が、社会やコミュニティの変化とともに希薄化しています。

次世代の「育ちの場」として、いま改めて地域の「子育て力」をとらえ直し、私たちの村にふさわしい形で「子どもの居場所づくり」など、子どもが育つための環境を整備していく必要があります。現在、保健センターにおいて、ちびっこ広場の開放や卓球台、パソコンの設置を進めてきましたが、特に取り組みが遅れている中高生の居場所づくり等を、今後充実していく必要があります。

これらの点については、大きな課題でもあり、今後検討を進めていきます。

### ちびっこ広場の概況

場 所	保健センター内の1室
開館時間	平日8時30分～17時（月曜日～金曜日）
設 備	大型おもちゃ・図書
対 象	特に設定はしていないが、ほぼ乳幼児。親の責任のもと、誰でも利用可。
利用内容	月に4回程度『いっしょに遊ぼう』日を設定。 親同士の交流の場としても利用している。



ちびっこ広場

## エ 子どもの健全育成

子どもの意見や視点が十分に尊重され、優れた体験が供給され、住民やボランティアとの協働の場となるよう、子どもの健全育成を支える施設の整備に努力します。

また、地域内で子どもを取り巻く状況などについて、行政や学校、PTA、民生委員、主任児童委員、そして、住民一人ひとりも相互に情報を交換し、認識を共通化するといったことにも積極的に取り組んでいきます。

## オ 利用者の立場に立った、子育て情報の提供サービスの確立

子育てに関する様々な情報を利用者の立場に立ち、「受け取りやすく」「利用しやすい」形で、情報格差による不利益が生まれないよう配慮し、提供していくことが必要です。

さらに、情報の提供方法についても検討していく必要があります。近年、子育て家庭におけるインターネットの利用が進んでいることから、従来の紙媒体だけでなく、ホームページを活用した情報提供にも取り組んでいきます。なお、その具体的な内容等については、今後検討を進め、早期の実現を目指します。

## カ 世代間交流の促進

性別や年齢に関わらず、様々な人と交流することにより、子どもも社会の一員であることを学んでいける場の提供を進めていきます。様々な機会や地区の公会堂等を利用して、高齢者だけでなく、地域のあらゆる世代との交流も進めていきます。



## (2) 子どもの健康の確保

### 《現状と課題》

子どもが健やかに生まれ、成長していくためには、母子保健・小児医療体制の充実が不可欠です。

妊娠中は、様々な要因により精神的に不安定になったり、また出産後は、子育てにおける肉体的・精神的負担により孤独感を感じたりすることもあるため、これらの負担や孤独感を和らげると同時に、特に子どもの健康に関する必要な知識を普及するためにも、各種相談事業や親同士の交流の場をつくる必要があります。

### 《施策の方向性》

#### ア 子どもや母親の健康の確保

妊娠中は、精神的にも不安定になることが多いことから、安心して出産ができるよう、妊産婦教室や相談事業・訪問事業を充実していきます。

また、日頃の子育てに関する不安や悩み等を健診や教室の場だけでなく、電話やメールなどで、いつでも気軽に相談できる体制を充実させていきます。

同時に、子育て中の保護者が孤独感に陥らないよう、地域の仲間づくり等を支援していきます。住民一人ひとりも、どの家の子どもたちも地域の子どもとして見守り、また子育ての“先輩”として地域全体で子育てを支援していくことも大切です。

#### イ 「食育」の推進

生涯にわたって健康な生活を送るためには、食事に対する配慮が必要です。また、食は、人間性の形成と家族関係づくりの基本でもあることから、望ましい食習慣を身に付けていくことが大切です。

そこで、子ども自身が自分から楽しく食べようとする意欲をもち、おいしいものをおいしいと感じる力が育つよう、家庭において手作りの食事や家族で食事をとることの普及を図ります。そして、保育園や小学校で行われている給食への取り組みの充実（旬を知る、安全な食材、地場野菜の導入、生産者・調理員・栄養士との交流など）をしていきます。幼稚園や保健センターにおいても、栄養委員との連携も行いながら、食に関する学習の場や情報の提供に取り組んでいきます。

また、妊産婦については、特に栄養面での相談・指導が必要となることから、妊産婦教室・両親学級（パパママスクール）・健診の場等で、食生活の改善に向けた学習の機会や情報を提供していきます。

平成14年度から保健センター北側に『ちびっこ菜園』を整備し、サツマイモの収穫体験を行っています。社会福祉協議会や子育て支援センターと連携し、今後さらに事業の充実をしていきます。



## ウ 思春期保健対策の充実

性感染症罹患率の増大等の問題に対応するために、性や性感染症予防に関する正しい知識の普及を図っていきます。

これらのことは、学校のカリキュラムの中で取り上げられているものでもあります。不安を持った子どもが安心して相談できるよう、相談体制の充実にも取り組んでいきます。

## エ 小児医療の充実

小児医療は、安心して子どもを生み育てるための基盤となるものです。そこで、小児医療に関する情報提供や相談体制を充実し、日頃の健康管理をバックアップしていきます。さらに救急医療については、近隣市の医療機関との関係をより一層強化し、万が一の場合にも安心できるような体制づくりに取り組んでいきます。



親子でうどん打ちにチャレンジ

### (3) 要支援児童への対応などきめ細かな取り組み

#### 《現状と課題》

現在私たちの村では、ひとり親家庭が年々増加しています。

ひとり親家庭対象者数（非課税世帯のみ）

年度	対象者数（人）
平成12年度（3月31日現在）	32
平成13年度（ // ）	30
平成14年度（ // ）	30
平成15年度（ // ）	33
平成16年度（10月1日現在）	36

また、支援費制度の導入など、障害者福祉施策が大きく変わりつつある現在、障害のある子どもへのサポートは、「障害を乗り越えて、誰もが分け隔てられることなく、普通の生活を送ることができる社会の実現」というノーマライゼーションの理念に基づいて進めていかなければなりません。

しかし、その過程では、障害のある子どもが地域でいきいきと生活できるよう、障害のない子どもとともに成長できるような配慮が必要です。これまで私たちの村では、保育園や幼稚園、小中学校の通常の学級とともに生活し、学びたいと希望する親子の増加に対して、教員の充実や特殊学級の設置、施設の改修等、様々な受け入れ方法が取り込まれてきましたが、今後も、就学に当たっては親子の意向を尊重する方針を続けていく必要があります。

要支援児童に対する山手小学校の支援の現状

支援項目	支援内容
学級の設置	2学級
教職補助員の設置	2人
施設・整備の支援	エアコンの設置

また、近年の児童虐待の件数は年々増加しており、各方面で取り組みの強化が図られています。多くの子育て家庭が、子育てそのものへの不安感や負担感を感じている現在、児童虐待は決して特殊なことではなく、誰にでも起こり得ることです。

私たち一人ひとりが、虐待を防ごうとする意識を持つことが、虐待予防に結びつくと考えられますので、各種相談事業や親同士の交流事業、さらには多様な保育サービスを通して、子育てへの不安感や負担感を和らげるよう、取り組んでいきます。

## 《施策の方向性》

### ア ひとり親家庭等の自立支援の推進

ひとり親家庭については、それぞれの家庭が自立した生活を営めるよう、相談事業や経済的支援、就労支援に取り組んでいきます。住民一人ひとりも地域の仲間としてできる限りの協力をしていきます。

### イ 障害のある子どもへの施策の充実

#### (ア) 障害の原因となる疾病や事故の早期発見・治療

妊婦一般健診や乳幼児健康診査の充実により、障害の早期発見に努めるとともに障害のある子ども及び発達に問題があると思われる子どもに関しては、関係機関の連携により、最善の方向を探っていきます。

#### (イ) 障害のある子どもへの支援と身近な地域での安心した生活の実現

障害のある子どもが地域で安心してともに生活できるよう、在宅福祉サービスを充実させることを根底にし、地域においては私たち一人ひとりが見守っていけるような体制づくりに努めます。

#### (ウ) 各種子育て支援事業との連携

障害者計画の中でも触れている「共に育ち、学ぶ保育・教育の充実」の実現に向け、障害のある子どもが地域で障害のない子どもとともに保育・教育を受けることができるよう、関係機関の連携を強化していきます。

### ウ 児童虐待防止対策の充実

児童虐待問題に対応する機能を持つ医療、保健、教育、児童相談所、警察等関係機関が連携して、私たちの村が一体となって子どもや家庭への援助の方法や対策を考え、対処していきます。また、児童虐待の防止、早期発見・対応、保護・支援、アフターケアなど、児童虐待に対して総合的に対応していくため、私たち一人ひとりが地域の状況に目を配っていきます。

#### (4) 地域における子育て支援のネットワークづくり

##### 《現状と課題》

子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育てを社会全体で支えていくためには、まず地域コミュニティにおいて子育てをサポートしていくための仕組みづくりが必要です。

私たちの村では、平成14年度から子どもの「生きる力」の基礎的な資質や能力を培う上で重要な役割を担う家庭教育の支援を図るため、子育て中の親の身近な相談相手としての「子育てサポーター」の配置、子育て支援のための様々な交流事業の実施など、地域における子育て支援ネットワークを形成して事業を展開しています。次世代育成の環境を整備するには、行政、民間、地域などが連携するネットワークが様々な人や組織と協力し合いながら発展していくことが重要です。そのためには、地域における子育て支援のネットワークをさらに拡大し、きめ細かく充実させることにより、多様な子育てニーズに対応し、村全体で子育て支援が行えるよう取り組んでいきます。

##### 子育て支援ネットワーク協議会所属団体等

やまて子育てサポートセンター (社会福祉協議会)	おはなしポケット (子育て支援グループ)
やまて子育てボランティア	小学校PTA
子育て支援センター (山手保育園)	たんぽぽクラブ (子育てサークル)
主任児童委員	子育てアドバイザー (6地区に各1人)
愛育委員会	保健師 (保健センター)
保育園保護者会	住民課 (役場)
幼稚園PTA	教育委員会

##### (平成15年度実績)

連絡協議会の開催	年2回
子育て機関紙の発行 (教育委員会)	年1回

##### 子育て支援ネットワーク事業(平成15年度)

やまて子育てサポートセンター研修会	年 2回
子育てサロン	年 9回
なかよし通信 (子育て支援センター)	年12回
ちびっこ便り (保健センター)	年12回

## 《施策の方向性》

### ア 子育てに関する多様な村民活動の創造と支援

この計画の実現には村民の協力が不可欠です。そのためには、子育てに関する村民活動を奨励し、多様なボランティアグループを育成していくことも課題です。親と子の成長を社会全体が支えるという考えの下に、地域の子育てを支援する親によるネットワークや地域のボランティア、子育てサロン、行政による子育てに関する学習機会や情報の提供、活動場所、活動助成、相談体制の整備等様々な支援に取り組んでいきます。

### イ 子育て支援のネットワークづくり

現在私たちの村には、「子育て支援ネットワーク」が設置されていますが、こうしたネットワークをさらに拡充させていきます。人や情報、知恵や経験が共有されることで、相乗効果を促し、個々の活動がより豊かに広がり、きめ細かな子育て支援や対応が展開されることを目指します。

### ウ 子育て中の親子の交流促進

子育て中の親が孤独感に陥ることなく、子育ての喜びを分かち合うことができるよう、誰もが気軽に訪れ、子育て中に親同士が交流し、子育てに関する相談が気軽にできる「子育て支援センター」や「ちびっこ広場」「やまて子育てサポートセンター 研修会」「子育てサロン」といった場や機会を、さらに住民の方に広めていきます。

また、子育て中の親子で組織された「たんぼぼクラブ」の自主的な活動を支援していきます。

### エ 子育て支援ボランティアの育成

子育てや子どもの育ちを地域全体で支援し、子育て支援のボランティアを奨励し、活動の担い手を育成することが重要です。子育て中の親にとって、身近な相談者や支援者となれる多様な子育てボランティアの育成に積極的に取り組んでいきます。